

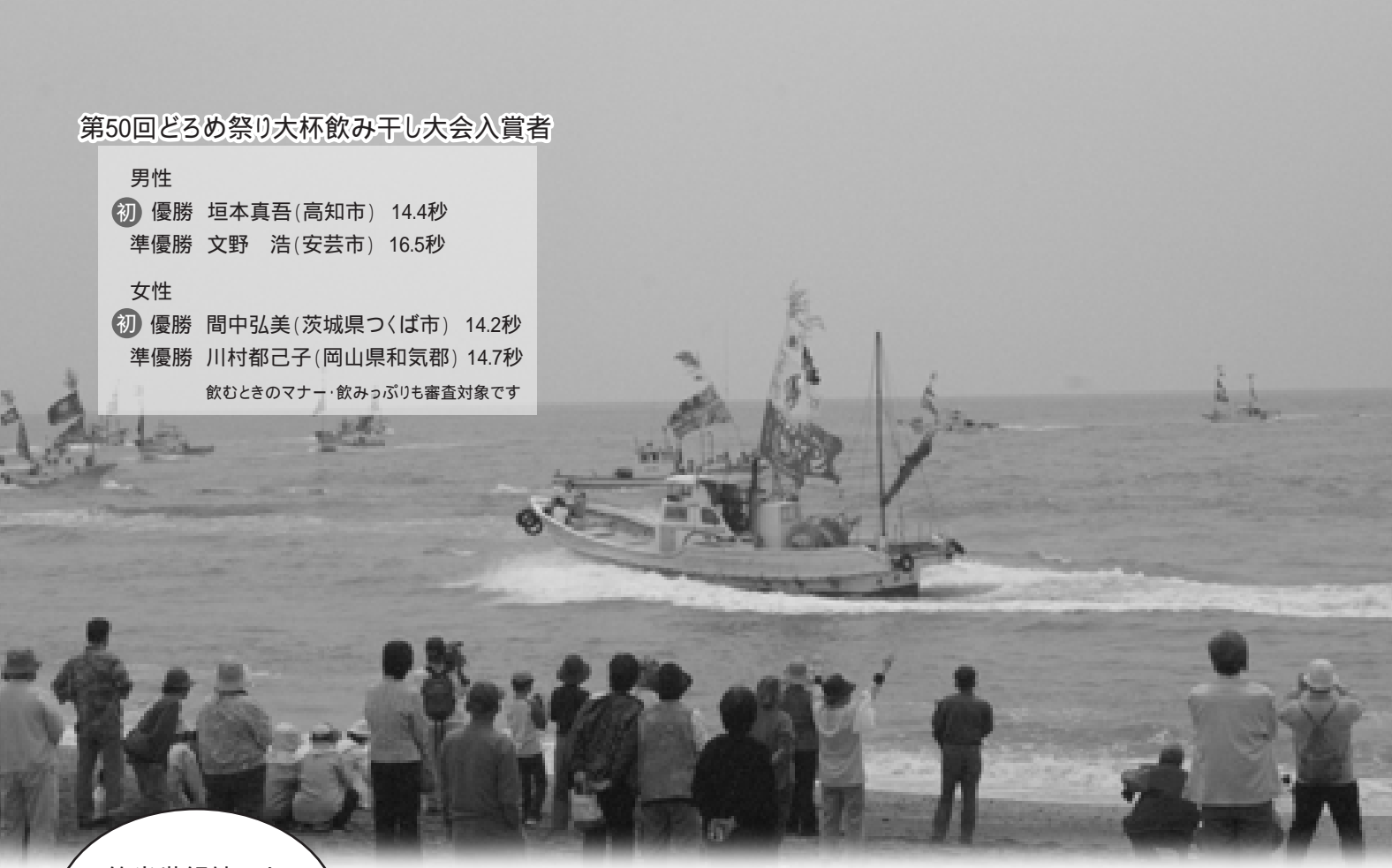
第50回どろめ祭り大杯飲み干し大会入賞者

男性

- 初優勝 垣本真吾(高知市) 14.4秒
- 準優勝 文野 浩(安芸市) 16.5秒

女性

- 初優勝 間中弘美(茨城県つくば市) 14.2秒
 - 準優勝 川村都己子(岡山県和気郡) 14.7秒
- 飲むときのマナー・飲みっぷりも審査対象です



約半世紀続いたどろめ祭りを来年もよろしくね!



大漁くん

どろめちゃん

どろめ網曳唄やどろめ音頭を赤岡民謡クラブが披露、飛び入りの参加者も一緒に約六十人が踊りました。



恒例の地元業者有志による「白波五人男」



ぐびりぐびり 太平洋を一気飲み

太平洋を望むメインステージで行われる大杯飲み干し大会は男性は一升(1.8リットル)、女性は5合(0.9リットル)を一気に飲み干します。毎年県内外から我こそはという酒豪の参加があり、今年は男性13人、女性12人の計25人が挑戦しました。

海岸に集まった約1万人のギャラリーの前で、「ぐーっと、ぐぐーっと」との掛け声であおると挑戦者はぐびりぐびり。「ほら、のどが動いてない!」とけしかけられ完飲。飲み干す速さだけでなく豪快な飲みっぷりも審査の対象になりました。

連続優勝するとどうなるの?

3年連続優勝すると「酒豪博士」に認定されます。今年は、昨年3度目の優勝を果たした小川さん(高知市)に博士の認定証が贈られました。(認定証授与式)



大杯飲み干し大会に参加した人だけが味わえる「大杯の酒」。いつもの日本酒とはひと味違うとのこと。

「どろめ祭り」のはじまりは?

昭和33年に地元の醸造家の社長が地酒をPRするため「どろめ」をさかんにして客人を接待したことが始まりといわれています。

名物行司の島崎さん



(注意)お酒は二十歳になってから!無理な一気飲みも禁止です。

「どろめ」とは?

マイワシやカタクチイワシの稚魚の別称。

「どろめ」のおいしい食べ方は?

地元では、「どろめ」を三杯酢かヌタをかけて食べるのが一般的。薄塩で釜ゆでしたチリメンジャコは、また格別な味。